

2024 年 度 事 業 報 告 書

I 事 業 の 概 要

1. 遠山記念館の維持運営

- ・遠山記念館の維持運営については、従来の方針を踏襲した。

2. 美術品、その他資料の収集、保管並びに一般公開

(1) 美術品、その他資料の収集、保管

該当事項なし

(2) 美術品、その他資料の一般公開

(イ) 展 観 の 日 程

| 回 | 期 間 | 展 観 名 | 展 観 内 容 |
|---|------------------------|---|--|
| 1 | 3月20日(水祝) ～5月19日(日) | テーマ展 子の日図屏風と宮廷文化 | 徳川家定の正室である鷹司任子（たかつかさあつこ）の婚礼調度として狩野養信によって制作された「源氏物語子の日図」をはじめ、平安時代の古筆、王朝文化の香りを伝える香道具などを展示した。 |
| 2 | 6月1日(土) ～9月1日(日) | コレクション展 1 | 幅広いジャンルを持つ遠山記念館のコレクションの中から、近代の日本画や工芸作品、また中国の陶磁器などを選んで展示した。 |
| 3 | 9月14日(土) ～11月4日(月祝) | テーマ展 エジプト古代染織 ・コプト裂 100点 一織り文様は何を表しているのか | 4～8世紀のエジプトのキリスト教徒が身に着けた衣服や布を「コプト裂」と呼ぶ。遠山記念館の所蔵するコプト裂の中から 100点を選び、文様に焦点をあてて紹介した。 |
| 4 | 11月23日(土) ～1月19日(日) | コレクション展 2 | 年末年始に合わせ、遠山記念館のコレクションの中から新年の干支である蛇に因んだ美術作品、また正月をお祝いするのにふさわしい作品を選んで展示した。 |
| 5 | 2月1日(土) ～3月9日(日) | テーマ展 雛の世界 | 大型で豪華な享保雛から芥子雛まで様々な雛人形の他、嵯峨人形、御所人形、賀茂人形などを展示する。また恒例として、遠山邸の大広間では、十畳の座敷に飾られた雛壇を展示した。 |
| 6 | 3月18日(木祝) ～5月18日(日) | テーマ展 近代の「日本画」 | 旧狩野派の橋本雅邦の門下である横山大観や菱田春草らの作品は、西洋絵画の影響を受けた新しい絵画として、現在は「日本画」と呼ばれている。本展では遠山記念館の日本画の名品を紹介した。 |

(注) 休館日 ・定例休館日 毎週月曜日(当日が祝祭日の場合は翌日)

・展示替期間

・年末年始 12月21日～1月5日

(ロ) 開館状況

- ① 開館日数：293 日
- ② 入館者数：7,542 人

(単位：人)

| 区分 | 今年度 | 前年度 | 増減差 |
|----|-------|-------|------|
| 大人 | 3,458 | 3,355 | 103 |
| 学生 | 129 | 97 | 32 |
| 団体 | 536 | 828 | △292 |
| ※他 | 3,419 | 3,272 | 147 |
| 合計 | 7,542 | 7,552 | △10 |

※他 招待、小人、優待、無料、YFC・県教委・障害者

③ 入館料収入

(単位：円)

| 今年度 | 前年度 | 増減差 |
|-----------|-----------|----------|
| 4,659,870 | 5,034,220 | -374,350 |

(3) 収蔵作品の保存修復活動

小鉢 ミッレフィオリ・ガラス

(4) 収蔵作品の新規評価活動

該当事項なし

3. 展示等に関連する講演会、教育普及関連の催事の開催

(1) 展示関連の催物、ワークショップ、ギャラリートーク等

5月11日(土) 特別講座「源氏物語と美術—お伽草子から垣間見る—」

講師：上野友愛氏(サントリー美術館主任学芸員)

10月12日(日) 特別講演会「コプト時代の社会と人々の暮らし」

講師：辻村純代氏(古代学協会客員研究員)

10月19日(土) 特別講演会「コプト織—文様とシンボルの饗宴—」

講師：加藤磨珠枝氏(立教大学教授)

2月1日(土) 地域子ども教室「子どものためのギャラリートーク」(共催：川島町教育委員会)

2月22日(土)、3月1日(土)・2日(日)「雛祭りの日ガイドツアー」

(2) 投扇興を楽しむ会

毎月第2日曜日を中心に実施

(3) 遠山邸 2階の特別公開

4月20日(土)、5月18日(土)、9月21日(土)、10月14日(月・祝) 以上4回

4. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 博物館実習の受託

期 間：9月18日から9月26日までの8日間

尚美女子大学、立教大学、東京家政大学、十文字学園女子大学から学生4名を受入れる。

(2) 美術品の貸出協力

| | 貸出先 | 展覧会名 | 貸出期間 | 貸出作品 |
|---|----------|-----------------------------|--------------|--------------------|
| 1 | 根津美術館 | 地球の裏側からこんにちは! 根津美術館のアンデス染織— | 4月13日～5月12日 | 1. 羽毛縫付裂 双頭ジャッカル文様 |
| 2 | サントリー美術館 | 没後300年記念 英一蝶—風流才子、浮き世を写す— | 9月18日～11月10日 | 1. 英一蝶「布晒舞図」 |
| 3 | MOA美術館 | 光琳 国宝「紅白梅図屏風」×重文「風雷神神図屏風」 | 11月1日～11月26日 | 1. 安田靉彦「風神雷神図」 |

(3) 助成金、奨学金の支払い

(イ) 遠山記念館芸術・学術等助成金として、「埼玉県文化振興基金」に100万円を拠出した。

また、公募申請の結果、2名（小鷹拓郎氏：埼玉県在住アーティスト、建島哲氏：埼玉県立近代美術館 館長）に各25万円支払った。

(ロ) 遠山記念館留学生奨学金として、「埼玉県グローバル人材活躍基金」に100万円拠出した。

(ハ) 遠山記念館障害者のための文化芸術振興助成金として、「埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金」に100万円拠出した。

5. 学芸員による主な研究活動

(1) 口頭発表

依田徹「茶の湯文化学会大会 田藩文庫の茶書—新出の『三冊名物記』を中心に—」(6月9日)

依田徹「茶の湯文化学会東京例会 田安慶頼の茶の湯—玄々斎と井伊直弼との関係から—」(7月6日)

(2) 外部講座等

久保木彰「非常勤講師(日本美術史担当)」(大東文化大学)

新井久代「狭山市立博物館講演会 雛人形の歴史について」(2月16日)

新井久代「さいたま市岩槻人形博物館人形資料等選考評価委員会委員」(さいたま市)

新井久代「さいたま市岩槻人形博物館運営委員会委員長」(さいたま市)

新井久代「非常勤講師(博物館実習・博物館展示論・博物館情報・メディア論担当)」(跡見学園女子大学)

柳澤恵理子「非常勤講師(美術史担当)」(埼玉学園大学)

柳澤恵理子「非常勤講師(博物館教育論添削担当)」(京都芸術大学)

依田徹「さいたま茶道会講演会 茶掛になった絵巻物 —佐竹本三十六歌仙絵巻—」(4月10日)

依田徹「淡交会巡回講師 懐石の歴史と変化」(6月23日)

依田徹「淡交会巡回講師 益田鈍翁の茶の湯」(8月25日)

依田徹「淡交会巡回講師 阿波と茶の湯」(9月15日)

依田徹「青山グリーンアカデミー講座 菓子茶事の振舞」(12月19日)

依田徹「寛永行幸文化講座 寛永の椿から元禄の躑躅へ—17世紀における盆山と園芸—」(12月22日)

依田徹「非常勤講師(茶道史担当)」(昭和女子大学)

依田徹「非常勤講師(茶道史担当)」(学習院女子大学)

依田徹「非常勤講師(物の文化史担当)」(学習院女子大学)

依田徹「非常勤講師(近代茶道史)」(裏千家茶道学園)

依田徹「文化審議会文化財分科会 第六専門調査会委員(生活文化、食文化担当)」(文化庁)

依田徹「請負業者選定委員会委員(佐竹本三十六歌仙絵修理)」(東京国立博物館)

依田徹「伝統文化親子教室事業に係る協力者会議委員」(文化庁)

(3) 刊行物等

柳澤恵理子「ホーロー看板は戦後の社会をどのように描くのか」『文化財が語る歴史 社会文化編』雄山閣、9月

依田徹「豆腐を愛した数寄者たち」『なごみ』535、7月

依田徹「鯖街道、人物誌」『なごみ』543、2月

依田徹「近代皇族茶人としての小松宮彰仁親王：道具蒐集と裏千家との関係から」『茶の湯文化学』43、茶の湯文化学会、3月

依田徹「茶人としての井上馨」『野村美術館研究紀要』34、野村美術館、3月

※ 「事業報告の内容を補足する重要な事項」(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項)がないため、事業報告附属明細書は作成しなかった。